

わっかプロジェクト、ご存知ですか？

2020  
4 月号  
no.585

# 支える人を支える 京都の 福祉

『京都の福祉』は福祉関係者に福祉の課題や情報を提供する  
「京都府社会福祉協議会」(府社協)が発行する広報誌です



●今月の「ふくしびと」は森 あす香さん ▼7ページ  
●東京2020パラリンピックに挑む ▼2ページ

もえくさ



M.Y

🌱 新型コロナウイルスの終息する  
気配が見えず、不安を抱えたまま  
新年度を迎えることになった。小  
中高校の休校、福祉施設や医療機  
関の休業、各種行事の中止の流れ  
は、私たちの社会生活に大きな影  
響を及ぼしている。経済活動の停  
滞が最小限に留まることを願わず  
にはられない。

🌱 こうした中、休校中の子ども達  
の過ごし方を心配し、飲食店・旅  
館や住民団体などが、居場所の確  
保、食事・食材の提供などに取り  
組んでくれている。私たちは地域  
の絆ネットワークづくりを掲げて  
交流活動を進めてきたが、今こそ  
地域で困っている方への声かけを  
出来るかが試されている。

🌱 さて、人類の歴史は、ウイルス  
や細菌による感染症との戦いとも  
いえる。今、世界中を人・物・情  
報が凄い勢いで飛び交っており、今  
回のウイルス伝播も百年前の「ス  
ペインかぜ」と比べようのないお  
よそ3ヶ月で世界中に広まり、パ  
ンデミックに至った。

🌱 その克服には科学・医療だけで  
なく、私たち自身の感染予防の取  
り組みが重要である。そして、東  
京オリンピック、パラリンピック  
を安心して迎えたいものである。

## ゴールボールレフェリー 新居 平康さん

にい・よしのり



### 観戦ポイント

選手にとって音が頼りであるため、プレー中は観客も静寂を守らなければならない。プレーの開始時にはレフェリーが「クワイエット・プリーズ」とコールし、これが静かにする合図。ゴールが決まった瞬間やタイムアウト時などゲームが止まっているときは大きな歓声を！



### ゴールボールとは…

1チーム3人で編成され、バレーボールと同じ広さのコートを舞台に、ゴム製でバスケットボールくらいの鈴の入ったボールを転がしあい点を奪い合う。試合は前後半12分ずつの計24分で行われる。選手は視力の程度にかかわらずアイシェードという光が入らないゴーグルを装着してプレーする。

コールや笛はわかりやすくはっきりと  
選手にプレーの結果をフィードバック

# TOKYO 2020

### 見え方の程度による 優劣がないのが面白い

「静まり返ったコートの中に響く、鈴の入ったボールが転がる音。アイシェードという目隠しをした選手は視覚以外の全ての感覚を研ぎ澄まし、その音や相手の足音、動く際に生じる床のわずかな振動などを頼りにボールを追う。」

「多くの障害者スポーツは、健常者がやっているものを障害があってもできるようにルールや道具をアレンジしていますが、ゴールボールは『見えない』ことをベースに作られた、障害者スポーツ独自の競技なんです」と話すのは、ゴールボールのレフェリーを務める新居平康さん。

「ゴールボールは元々、第二次世界大戦で視力に障害を受けた軍人たちのリハビリテーションプログラムとして考案された。鈴の入ったボールを転がしてゴールを奪い取るというゲーム形式で、2010年にはIBSA（国際視覚障害者スポーツ連盟）が認定する最上級資格の「レベル3」を取得した。パラリンピックなどの世界大会ではレベル3でないとレフェリーを務めることはできない。加えて、レベル3を維持するためには厳しい条件が課せられるため、レベルを落とすという人も多くいる。現在、レベル3の審判は世界に30人ほどしかいない。その中から新居さんは、東京パラリンピックでレフェリーをする精鋭12人の一人に選ばれた。」

レフェリーをする上で、心がけていることを聞いた。「選手は全く見えていない状態でプレーをしているので、アウト、ゴールといったコールははっきりと大きな声で伝え、笛も強くしっかりと吹きます。わかりやすく伝えることは、視覚障害者スポーツにとって一番の基本です。審判として反則をとって罰するというより、選手にプレーの結果をフィードバックする感じです。」

視覚障害というのは移動と情報の障害と言われている。見えない、見えにくいことで、自由に移動が出来なかったり、情報量が制限されてしまう。ゴールボールでは、レフェリーが笛とコールにより状況を伝えることで、選手は安心してプレーできる。

開幕まで4カ月に迫った  
東京2020パラリンピック。  
パラスポーツに  
関わる人たちの熱い思いを  
「京都の福祉」がレポートします。



「たボールを相手ゴールに向かって投球し、得点を奪い合う。選手は音を頼りにプレーするため、静寂の中で激しい攻防が繰り広げられる。」

新居さんがゴールボールと出会ったのは社会人になってからだ。視覚障害者総合福祉施設の（福）京都ライトハウスで働き始めた際、利用者の訓練の一環で体育を担当した時に初めて体験した。そしてゴールボールにのめり込むまでに時間はかからなかったという。

「思いっきり全身を使うスポーツとしての迫力、選手の動きやボールの緩急といった音の駆け引き、全く同じ条件でプレーするという見え方の程度による優劣がないことに面白さを感じ、すぐに魅了されましたね。」

### いろいろな情報を 伝えることが大切

2003年に国際審判員の資格を取得した新居さん。2010年にはIBSA（国際視覚障害者スポーツ連盟）が認定する最上級資格の「レベル3」を取得した。パラリンピックなどの世界大会ではレベル3でないとレフェリーを務めることはできない。加えて、レベル3を維持するためには厳しい条件が課せられるため、レベルを落とすという人も多くいる。現在、レベル3の審判は世界に30人ほどしかいない。その中から新居さんは、東京パラリンピックでレフェリーをする精鋭12人の一人に選ばれた。」

最後に東京2020パラリンピックに向けて、意気込みを聞いた。「日本開催ですから、決勝戦でレフェリーをできたらいいと思います。でも、日本チームが勝ち上がってくるとルール上自国の審判はできないんです。でも、日本には勝ち上がってほしいですね。」

## 東京 2020 パラリンピック

### ゴールボール開催日程

日本チームはすでに男女とも開催国枠で出場が決定。  
8月26日(水)男女とも予選開始  
9月4日(金)男女とも決勝

◎会場：幕張メッセホール

# わっかプロジェクト、ご存知ですか？

地域における制度の狭間の課題に、複数の社会福祉法人が協働して取り組むことを目指して立ち上げた「わっかプロジェクト」(京都地域福祉創生事業)。さまざまな地域で、わっかの「輪」が広がっています！

食材の一時保管で、  
地域団体との接点が増加  
(福)青谷学園(城陽市)の場合

障害者支援施設を運営する(福)青谷学園は、施設の設備を活かしたフードセンターの食材一時保管庫に取り組んでいる。城陽市内や周辺地域で子ども食堂などに取り組む6団体と、きょうとフードセンター(事務局・京都府社協)並びに中央ライフサポートセンターから預かった食材を結ぶ重要な拠点だ。令和2年2月現在、お米やサラダ油、珈琲、冷麦、から揚げやフライドポテトを保管。提供団体とは電話やFAXでやり取りし、希望の食材を施設1階の保管スペースで引き渡す。地域団体との接点が増え活動の話を聞く機会が生まれた。法人は地域貢献の手応えを感じている。



(福)青谷学園 法人本部  
野間美穂さん

フードセンターを通して、施設へボランティアに来てもらったり、子ども食堂を運営されている方の勉強会でお話をさせていただいたりしています。

子どもたちの居場所を  
法人連携で続けていく  
ということ  
(福)做裏会(亀岡市)の場合



(福)做裏会(亀岡市)の場合

子どもからお年寄りまで地域に暮らす方々の  
つながりづくりのイベントを支えることで  
地域の活性化に貢献したいと思っています。  
(福)向陽福祉会 向陽苑  
施設長 高桑 勝さん



地域に暮らす人々の  
つながりづくりを支える  
(福)向陽福祉会(向日市)の場合

向日市内の社会福祉法人が連携する取組の一つが、住民の手作りイベント「向日市夏祭り!みんなで踊ろう盆踊り」への参画だ。「住民が交流を深め子どもたちが楽しく過ごせる機会をつくる」をテーマに、子ども食堂主催団体ら住民有志が中心となり、商工会、母子寡婦連合会、市社会福祉協議会らで作る実行委員会に、わっかプロジェクトチームとして社会福祉法人も参加した。

毎月会議と準備を重ねて迎えた開催日には、1500人を超える市民が会場の向日神社に集まったわっかプロジェクトチームは射的とポケネット、ジュース販売を担当。それぞれのブースには多くの子どもたちの行列ができ、向陽福祉会や(福)物集女福祉会のスタッフらがボランティアと共に汗を流した。



(福)利生会 亀岡園  
(特別養護老人ホーム)  
園長 細川 景子さん

「地域に貢献したい」という法人の思いと子どもの貧困への思いが出発点になり、子どもの居場所づくりをスタートさせました。今は、誰でも来れる、という場所を続けていくことが大事だと考えています」と中谷さん

「これどうやって遊ぶの?」「宿題、昨日やっておけばよかったわ」。土曜日の夕方、(福)做裏会が運営する亀岡あゆみデイサービスセンターに、子どもたちの笑い声が響く。普段は高齢者が集うデイサービスの食堂で、元気な小学生たちと遊ぶのは做裏会の事務長中谷哲也さん、小部屋で優しく勉強を見守るのは(福)利生会の亀岡園(特別養護老人ホーム)園長細川景子さんだ。

子ども食堂「かめおかみんな広場」は、わっかプロジェクトに参画した做裏会が2016年に立ち上げ、今年で4年目になる。毎月第4土曜日に開催し、毎回近隣の小学生やその母親ら20名前後が集う。

おいしい♡

今回はバレンタインや梅の花をイメージし、利用者さんが型抜きをしたクッキーをちりばめました。



(福)做裏会  
事務長 中谷 哲也さん

(福)松花苑ワークスおーい  
(障害者福祉サービス事業所)  
チーフ 垣本 潤子さん



参加者のお母さん  
服部 可奈さん

毎月楽しみに参加しています。子どもにとっては家族以外の色々な大人と関われる場で、褒めてもらったりするとすごく嬉しそうです。

## わっかプロジェクトに参加しませんか？

◆わっかプロジェクト(京都地域福祉創生事業)は、京都府社会福祉協議会と京都府社会福祉法人経営者協議会が協働し「地域における公益的な取組」を創出するために平成26年度に立ち上げた。現在29法人が参画し、様々な取組を行っている。活動費用は、参画法人からの拠出金を積み立てた地域福祉創生基金から助成される仕組みだ。「活動したいけれども、自分達だけでは難しい」という小規模の社会福祉法人にとっても取り組みやすい仕組みとなっている。

◆活動地域は府内各地に広がっており、それぞれの法人が特徴を生かして、子ども食堂や学習支援、子どもの居場所づくり等にバリエーション豊かに取り組む。今年度は新たに、困窮支援・災害支援・移動支援の3つの分野を軸に、働く場の提供や非常食イベントの実施、送迎サービス等の活動を提案。より一層地域の課題に沿った

活動づくりと、地域に暮らす誰もが集える取り組みを進めていく。

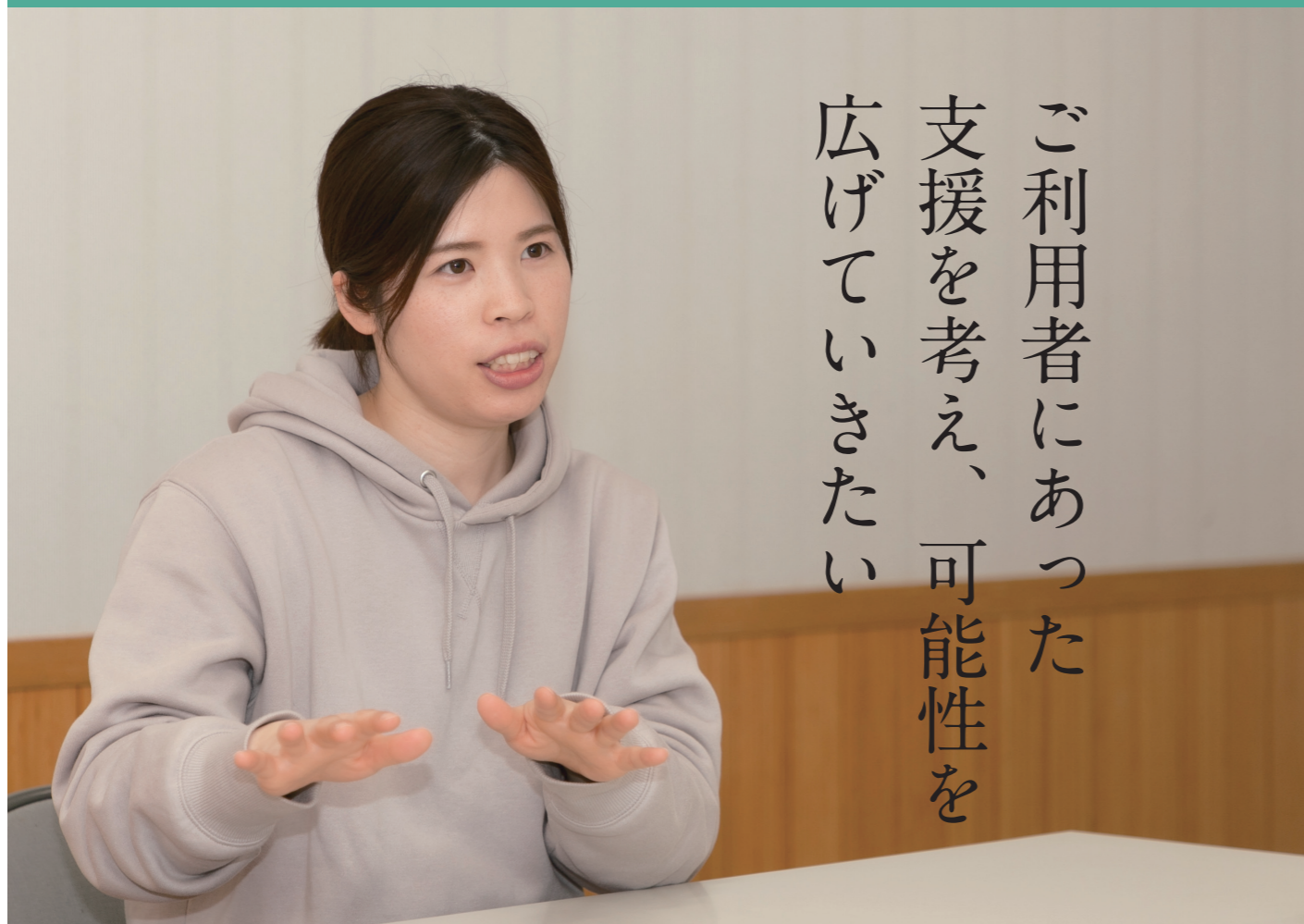
◆参画法人の実践を交流する事業報告会や意見交換会、メールニュースによる情報共有などで、横のつながりを参画法人の取り組みに還元することを目指している。市町村単位のわっかミーティングでは、より深く地域ごとの課題を地域内の法人や市町村社協と共有し活動の検討を行っている。

◆その地域で事業を続けてきた社会福祉法人だからこその地域の課題。一つ一つの法人ができることを出し合って、みんなで力を合わせれば活動の幅はグッと広がる。社会福祉法人としての存在価値や意義が求められる今、わっかになって、既存の制度では対応しづらい、困りごとを抱える方々の支援方法を共に考え、作っていきませんか？

「レクリエーションが得意な職員は子どもたちと塗り絵や折り紙を楽しんでいます。毎年恒例のたこ焼きづくりの日は一緒に調理することで経験から学んで欲しい。それぞれの立場ができる事を続け、わっかプロジェクトで支え合えたらと思います」と細川さんが語るように、地域の社会福祉法人同士の連携は、新たな居場所づくりや人のつながりを生み出す大きな可能性を秘めている。

「レクリエーションが得意な職員は子どもたちと塗り絵や折り紙を楽しんでいます。毎年恒例のたこ焼きづくりの日は一緒に調理することで経験から学んで欲しい。それぞれの立場ができる事を続け、わっかプロジェクトで支え合えたらと思います」と細川さんが語るように、地域の社会福祉法人同士の連携は、新たな居場所づくりや人のつながりを生み出す大きな可能性を秘めている。

息の長い取組を支えるのは、亀岡市内の社会福祉法人同士のネットワークだ。受付を担当するのは(福)亀岡市社会福祉協議会。利生会は職員を派遣し、(福)松花苑が京都府共同募金会の「ほっとはあとパースデー」の仕組みを通じ、食後のケーキを製造・配達する。



ご利用者にあった  
支援を考え、可能性を  
広げていきたい

ワーキングセンターいづみ ● 森 あす香さん

◆この職場を選んだ決め手は？

学生の時にアルバイトをさせていただきましたが、職員の方もご利用者も明るく賑やかで、とても楽しそうなのが印象的だったので。

◆職場のいいところ

仕事の取り組み方に関して、根拠がしっかりしていれば、いろいろとやらせてもらえるので、やりがいがあります。

◆好きな言葉

「よし、がんばろう。なんとかなる!」。仕事中はどんなことがあってもそう思って、自分を奮い立たせています。

「私が中学生の時、障害のある方が施設の職員に騙されたという悪いニュースを目にしました。私の姉には障害があるのですが、そのニュースがとても許せなくて。それで、障害のある方の助けになりたいと思っただけです」と話す森さん。(福) いづみ福祉会に入職して5年。現在はワーキングセンターいづみで、手漕ぎのがき作りや鍋しき作りなど、ご利用者の作業や活動のサポートをしています。

「ご利用者の中には、自分の想いを言葉でうまく伝えられない方もいます。こちらが勝手に決めつけてしまわなように、その方がどのようなことを望んでいるかを理解するよう心がけています」働き始めた頃は、「ご利用者主体」が分かっているようできていないのではと考える時があったと森さんは振り返ります。それでもさまざまな仕事を任せられ、いろいろと発想していくうちに、ご利用者に寄り添い、一緒にチャレンジして課題をクリアしていくことが、森さんにとっても喜びになったのだとか。「これからもご利用者一人一人にあった発達の支援を考え、その方の可能性を広げていきたいですね」

【施設名】(福) いづみ福祉会 ワーキングセンターいづみ  
【場所】京都府木津川市加茂町観音寺石部8番地  
【URL】<http://www.idumi-fukushikai.or.jp>  
【TEL】0774-76-7210 【FAX】0774-76-0070

昭和・平成、そして令和  
求められる  
福祉の形とは

第8回きょうと地域  
福祉活動実践交流会

12月7日、「きょうと地域福祉活動実践交流会」が京都府丹後文化会館（京丹後市）で開催されました。8回目を迎えたこの交流会は「地域福祉の歴史」をテーマに、これまでの地域福祉の変遷と、これから求められる福祉について学ぶことを目的として、地元住民や関係者約700名が参加して、盛大に開催されました。



公益財団法人さわやか福祉財団  
会長 堀田力さん

はじめに、地元ボランティアと社協職員の方々による「回覧板を通じた地域での支え合い」を描いた演劇が披露された後、公益財団法人さわやか福祉財団会長の堀田力さんから「歴史から学ぶ支え合いのカタチ」と題して、講演

演をいただきました。

堀田さんは昭和から現在に至るまでの日本の福祉施策について、戦後それまでであった「地域」や「家族」の支え合いが弱くなり、社会で支え合う必要性の高まりから、平成12年に「介護保険制度」がスタートしたが、介護保険制度もニーズの高まりなどにより自己負担が増し、これ以上の負担が難しくなっていると話されました。そして、令和の時代を迎え、かつてあった「地域での支え合い」をもう一度作り直す必要があると話し、プライバシーに配慮しながら、本人の困りごとと援助するという新しい支え合いの形を提案されました。

講演のあとは、地元京丹後市での「支え合い」活動についての実践報告がありました。

ひとつは、地元のNPOによる自家用車を活用した「支え合い交通」です。配車にスマートフォンアプリ「Uber」を活用したもので、中山間地の公共交通が少なくなる中、地域住民の皆さんの貴重な買い物や通院の足を担っています。

もうひとつは、地域の福祉委員会による「生活援助」活動で、地域の清掃活動や雪かきなど、地域住民による地域住民のための「支え合い」活動の報告をいただきました。

また、会場内には様々な地域の課題がパネル展示されており、最後に堀田さんにコメントをいただきました。

堀田さんからは、ごみ、新聞配達、雪かき、地域の担い手、買い物・移動手段などの課題について、地域の集まりで話し合い、「助け合い」「有償ボランティア」などの取組を進めることが重要、とのコメントをいただきました。また、助け合いの基礎として地域に「居場所」があることが大切で、子供の遊び場や保護者の交流などの課題の解決にもつながる、参加者の皆さんにもそれぞれの地域で課題を話し合ってもらい、とお話いただきました。



## 京都府社会福祉協議会からのお知らせ

ご寄贈  
ありがとうございます  
ございました



2020年2月13日(木) ハートピア京都にて京都府生命保険協会の車両寄贈式が行われました。京都府生命保険協会では社会貢献活動の一環として、生命保険会社の募金を基に、福祉巡回車の寄贈を毎年行っております。本年は伊根町社会福祉協議会へ車両が寄贈されました。

ご寄付  
ありがとうございます  
ございました

2020年2月20日に『尾上松之助遺品保存会様』より30,000円をご寄付いただきました。ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。ありがとうございました。

「京都の福祉」は、みなさまからの情報をお待ちしています!

府社協の広報誌「京都の福祉」は、「支える人を支える」をテーマに、読み手のみなさまに活用していただける紙面づくりに努めています。ご意見や感想はもちろん「こんなテーマを取り上げてほしい」「取材してほしい」、そんな情報をぜひ気軽にお寄せください。

### 第三者評価事業 受診事業所募集のお知らせ

京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構では、令和2年度の第三者評価受診事業所を募集しています。受診を希望される事業所は、支援機構ホームページ(<http://kyoto-hyoka.jp/>)より「**受診応募票**」をダウンロードし、必要事項を御記入の上、支援機構事務局まで郵送でお申込みください。

問い合わせ先 京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構  
(事務局: 京都府社会福祉協議会)  
TEL075-252-6292 / FAX075-252-6310

安心して暮らせる地域づくりのパートナー京都府社協では  
賛助会員を募集しています!

本会は社会福祉法に基づき設立された社会福祉法人です。「福祉で地域づくり」を合言葉に、諸事業に取り組んでいます。ご理解の上、ぜひ本会の「賛助会員」としてご支援ください。

会費額(年額) 賛助会員 個人1口5,000円 法人1口10,000円で希望口数



- 京都府社会福祉協議会発行の機関紙「京都の福祉」(年8回発行)をお送りいたします。府内の福祉の最新情報がお手元に届きます。
- 全社協出版部発行の福祉図書が割引価格で購入できます。
- 社会福祉大会など本会主催の講演会等のご案内を差し上げます。

問い合わせ先・申込先 総務課 TEL.075-252-6291

HP: <http://www.kyoshakyo.or.jp/introduction/introduction4/post-2.html>

● 本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

<http://www.kyoshakyo.or.jp> 京都府社協 検索



令和2年度  
社会福祉施設  
総合損害補償

# しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ぶくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

## 事故・紛争円満解決のために!

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

■ 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

保険期間1年

▶ 年額保険料(掛金)		基本補償(A型)
補償基本A型	定員	
	1~50名	35,000~61,460円
	51~100名	68,270~97,000円
付見舞費用B型	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
	基本補償(A型) 保険料	+
		[見舞費用加算] 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 施設職員の補償

プラン4 社会福祉法人役員等の補償



スケールメリットを活かした  
充実した補償と  
割安な保険料  
です。

● この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

● このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課 保険会社〉  
TEL: 03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763

受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)